平成２５年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定事業》

都道府県・指定都市番号	59	都道府県・指定都市名	京都市
学校名（児童数）	京都市立朱雀第七小学校（302名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：京都府京都市中京区壬生東土居ノ内町20番地
電話番号：(075)311-0307　ＦＡＸ：(075)311-0307
研究内容等を掲載しているホームページのURL：
http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/data/103503/

【 研 究 成 果 の ポ イ ン ト 】

○　研究のキーワード　①温かい人間関係づくり
②「話合い活動―実践活動―振り返り」というひとまとまりの活動
③育みたい道徳性の重点「なないろ」
④特別活動ノート「なないろノート」の作成
⑤「朱七スタイル」の確立

○ 研 究 成 果 の ポ イ ン ト ： 道徳性を育む特別活動の実践を通して，互いに認め合い，励まし合える温かい人間関係を築くことができる子供の育成を推進した。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

互いに認め合い，温かい人間関係を築く子どもの育成 ～道徳性を育む特別活動の実践～

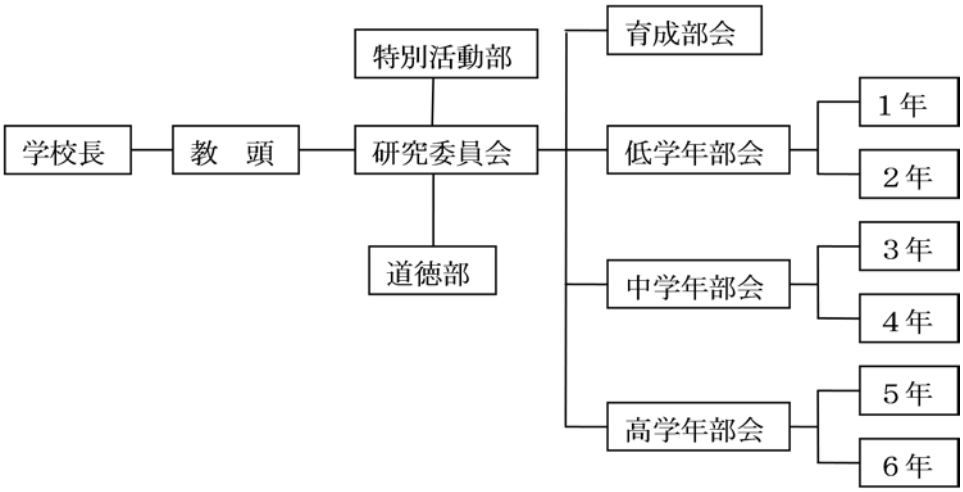
（２）研究主題設定の理由

本校は，よりよい学校生活や人間関係を築くため，平成23年度より特別活動，中でも学級活動に焦点を当て，温かい学級づくりを基盤とした規範意識を育むことを目指す研究を進めてきた。

一人一人が集団の中で互いのよさを認め合いながらそれぞれの役割を果たし，集団に貢献していると実感することで，支え合い励まし合う温かい人間関係を育んでいくと考え，学級活動の時間において人間関係づくりにつながる活動を多く取り入れた。取組の過程では「話合い活動―実践活動―振り返り」というひとまとまりの活動を意識し，さらにその振り返りを次の活動につなげていくようにした。その結果，子供達の生き生きと活動する姿が増え，学習に向かう姿勢が変わり，問題行動もほとんど見られない等，一定の成果をあげつつある。

25年度は，前年度の取組を継続し質を高めるとともに，本校が育みたい道徳性の重点「なないろ」を意識した特別活動の実践を通し，温かい人間関係を築くことができる子供の育成を目指すこととする。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	◆研究主題の共通理解と主題に迫るための年間指導計画の作成 ◆具体的な取組や子供の姿が見える授業研究会を核とした校内研究 温かい人間関係を基盤とした話合いのルールの定着・司会グループや計画委員会の編成・話合いノートの活用・教師の話等を核とした本校独自の「朱七スタイル」の確立 ◆育みたい道徳性の重点化とそれにつながる特別活動の実践 特別活動ノートの取組 ◆研究成果の公開と研究のまとめ 平成26年１月24日（金）研究発表会

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

◆集団の絆を深める話合い活動の充実

○学級活動の充実で，温かい人間関係づくりを図る。

・議題の設定や柱立ての工夫，話合いのルールの定着，話合いノートの工夫と活用，議長団の育成等，自分達で話し合い課題を解決できる力を付ける。

・議題の設定から話合い活動，実践活動，振り返りの活動までを「ひとまとまりの活動」として意識することで，育てたい力を明確にした継続的な指導を推進する。特に，「ひとまとまりの活動」の中のそれぞれの活動における「振り返り」を自分の生き方や道徳性につながるものとして位置づける。

・話合い活動，実践活動，振り返りの活動等どの活動においても一人一人が活躍できる場面を設定し，自己肯定感・自己有用感や他者を尊重する気持ちを育む。

○児童会活動，クラブ活動，学校行事においても，よりよい学校生活や人間関係を築くために話し合い，協力する取組を進め，人間関係としっかり向き合う機会とする。

◆育みたい道徳性「なないろ」を意識した取組の充実

○特別活動ノート「なないろノート」の作成

・学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事など特別活動のあらゆる場面を捉え，「なないろ」を意識した活動とその振り返りを，ノートに残していく。
（「なないろ」とは，思いやり・助け合い・感謝・奉仕・責任感・個性伸長・愛校心）

○共生の力を育成する兄弟学級の活動「朱七アイビー活動」の充実

・異学年交流において，より豊かな人間関係を育成する。

・年齢差を生かし，上級生が下級生に関わることで自己有用感や自己肯定感を獲得する活動とする。

・下級生は，上級生からやさしく関わってもらった体験により，良好な人間関係の大切さを学び，自分が上級生になった時の下級生への関わりに生かす。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

成果

・児童が学級会における活動過程を理解し，主体的に活動できるようになった。

・道徳性を意識した集団活動を通して温かい人間関係が育まれることにより，良好な人間関係に支えられた規範意識が児童の中に育った。

・自分の居場所があり，のびのびと自分を表現できる学級の中で，学習や活動にしっかり取り組めるようになり，子供の自己肯定感や自己有用感が高まると同時に学力も向上した。

課題

・どんな学年・学級でも取り組める，発達段階に応じた話合い活動の指導法のさらなる確立

・特別活動でつけた力が他教科や学校生活，さらには社会生活において発揮できる子の育成

（２）研究成果の意義等

・学級会における一連の活動過程及びその指導過程の確立に取り組み，一定の成果がみられた。特に，活動過程や話合いの過程の可視化を工夫したり，集団決定までの道筋のパターン化を整理したりしたことで，誰もが取り組め，成果を上げられる学級会を提案することができた。

・道徳教育との連携を図ることで，良好な人間関係を築く子供の育成に効果が見られた。

（３）指定期間終了後の取組

・25年度の取組を基に，次年度は，より自主的・自発的・自治的な力が，特別活動だけでなく，あらゆる教科・領域，そして生活において生かされ，発揮できるよう研究を進める。

・計画的な取組により道徳教育との関連をより明確にしていく。